

2006年3月期本決算 説明会資料

2006年5月16日



スパークス・アセット・マネジメント投信株式会社
www.sparx.co.jp

決算説明会資料に関して

この資料は、投資家への情報提供のみを目的として作成したものであり、特定の有価証券の取引を推奨する目的、または特定の取引を勧誘する目的で提供されるものではありません。

数値、情報については、正確性を期すべく、万全の配慮をしておりますが、一部内部資料に基づくものもあり、財務データに関しては未監査のものであるため、その正確性、完全性、情報や意見の妥当性等を保証するものでなく、当該データ、意見等を使用した結果についてもなんら補償するものではありません。

また、ここに記載された内容が事前連絡なしに変更されることもあります。この資料の著作権はスパークス・アセット・マネジメント投信株式会社に属し、その目的を問わず無断で引用または複製することを禁じます。



目次

- ▶ 2006年3月期 本決算概要
- ▶ アジア戦略について



2006年3月期 本決算概要



2006年3月期本決算のポイント

- ▶ **平均運用資産残高・残高報酬は共に、過去最高を引き続き更新した**
 - 運用資産残高は過去最高を記録(16,082億円;2006年3月末現在)
 - 残高報酬は、125.82億円(前年同期比58.0%の増加)
 - 残高報酬料率(ネットベース)は、0.81%(前年同期比0.07ポイントの減少)
- ▶ **成功報酬は、137.64億円(前年同期比129.0%の増加)を達成した**
 - 成功報酬付帯比率は、46.7%(前年同期比8.3ポイントの減少)
- ▶ **経常利益は、162.8億円(前年同期比112.2%の増加)を達成した**
- ▶ **当期利益は、88.9億円(前年同期比108.6%の増加)を達成した**
- ▶ **韓国子会社(Cosmo Investment Management Co., Ltd.)の業績は順調な推移を示し、過去最高の運用資産残高を達成した**
 - 運用資産残高1,711億円を記録(2006年3月末現在)



2006年3月期本決算ハイライト

本資料における数値は全て連結ベースの数値を使用している。

	2005年3月期		2006年3月期	
	通期		通期	前年同期比
運用資産残高(AUM)平残 (億円)	7,556		11,913	+57.7%
COSMO運用資産残高(AUM)平残 (億円)	694		1,203	+73.2%
営業収益 (百万円)	14,277		26,863	+88.2%
営業費用・一般管理費 (百万円)	6,487		10,462	+61.3%
営業利益 (百万円)	7,790		16,401	+110.5%
経常利益 (百万円)	7,670		16,280	+112.2%
当期利益 (百万円)	4,264		8,894	+108.6%
役職員数 (期末:常勤) (人)	127		201	+58.3%
TOPIX (期末)	1,182.18		1,728.16	+46.2%



(注1) 上記表中の数字は、「前年同期比」を除き、単位未満を切り捨てて表示。「前年同期比」は、小数点以下第2位を四捨五入して表示。

(注2) 役職員数は、期末時点の人数。「非常勤役員を含む役職員数(期末)」は、129名(2005年3月期)、204名(2006年3月期)

(注3) 上記表中の「運用資産残高(AUM)平残」については、韓国子会社(Cosmo Investment Management Co., Ltd.)の運用資産残高が含まれていない。

(注4) 「COSMO運用資産残高(AUM)平残(2005年3月期)」については、韓国子会社(Cosmo Investment Management Co., Ltd.)の2005年2月と2005年3月2ヵ月のみの平残である。

2006年3月期 貸借対照表概要

	2005年3月末 (百万円)	2006年3月末 (百万円)	前年同期比
流動資産	30,507	38,737	+27.0%
現預金	26,955	22,113	-18.0%
固定資産	5,311	18,700	+252.1%
投資有価証券	3,947	16,913	+328.4%
(資産の部 合計)	35,818	57,437	+60.4%
未払法人税等	1,630	5,517	+238.4%
(負債の部 合計)	2,835	15,700	+453.7%
(少数株主持分)	152	748	+391.9%
資本金・資本準備金	22,302	22,858	+2.5%
利益剰余金	12,014	19,369	+61.2%
有価証券評価差額金	216	1,797	+729.2%
自己株式	-1,503	-3,003	-
(資本の部 合計)	32,831	40,989	+24.8%

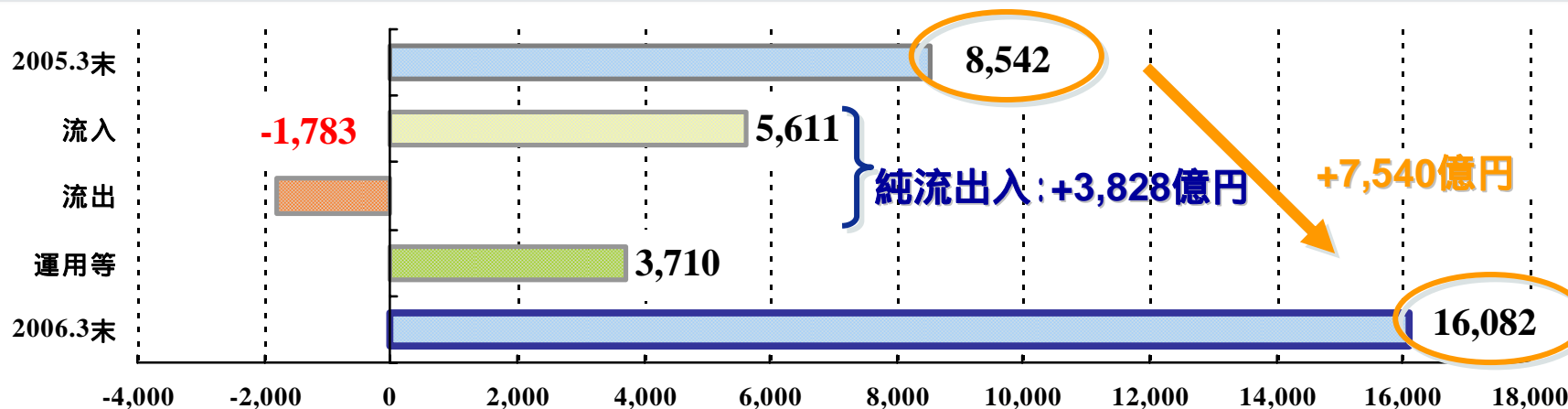
負債の増加は、
無担保社債50億円
(2005年9月発行)
及び未払法人税等
の増加等



(注) 上記表中の数字は、「前年同期比」を除き、単位未満を切り捨てて表示している。「前年比」は、小数点第1位以下を四捨五入して表示している。

資金流入 【2005年3月末～2006年3月末】

(単位:億円)

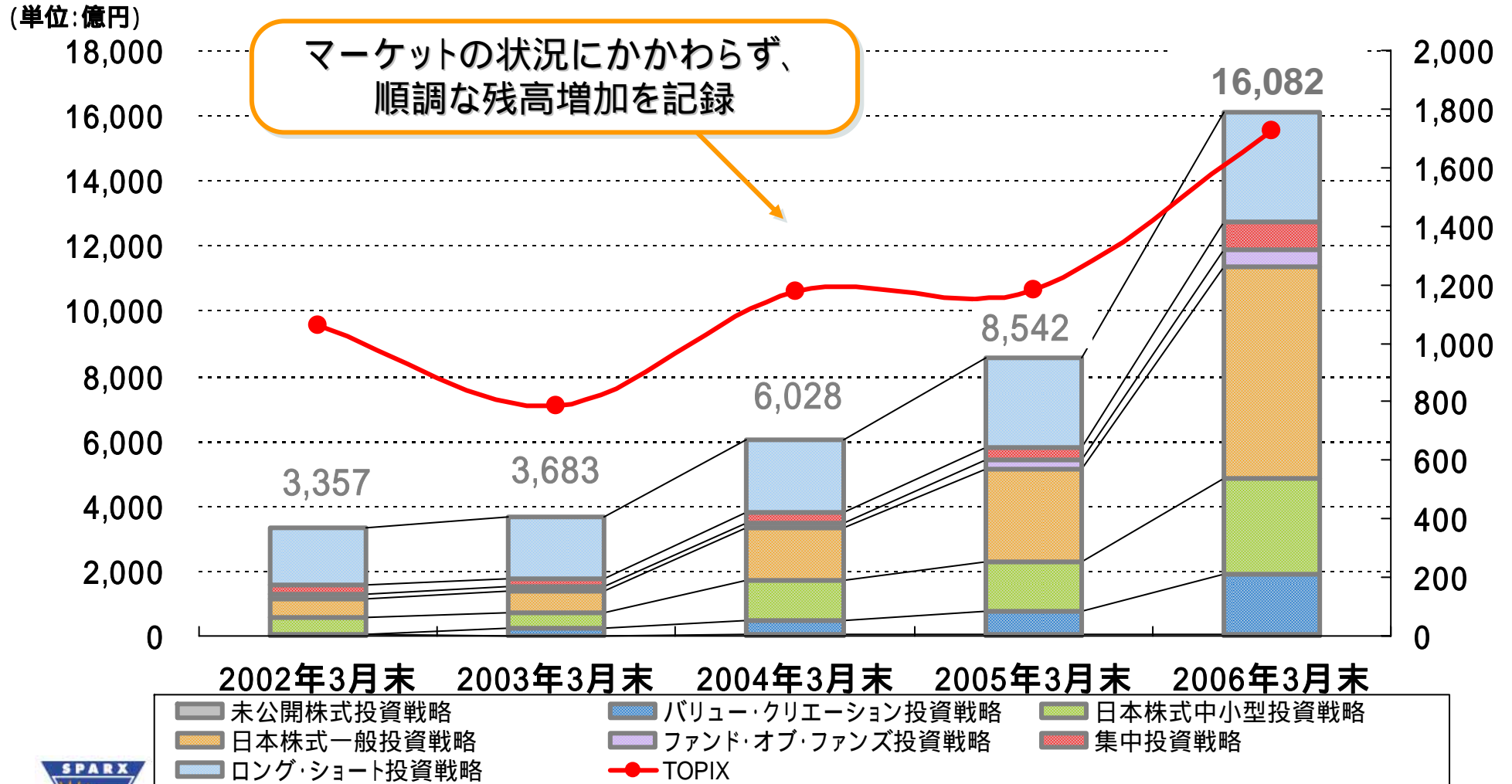


ストラテジー別	2005年3月末	流入	流出	運用等	2006年3月末
日本株式ロング・ショート投資戦略	2,739	728	-670	572	3,369
日本株式集中投資戦略	395	240	-19	225	841
ファンド・オブ・ファンズ投資戦略	267	227	-9	28	513
日本株式一般投資戦略	2,876	2,464	-588	1,754	6,506
日本株式中小型投資戦略	1,517	1,151	-495	774	2,948
バリュー・クリエーション投資戦略	704	799	-0	357	1,860
未公開株投資戦略	43	-	-	-1	42
合計	8,542	5,611	-1,783	3,710	16,082

(注1) 上記表中の数字は、単位未満を切り捨てて表示している。ファンド・オブ・ファンズ投資戦略の2006年3月末運用資産残高は、速報値を使用している。

(注2) 上記表中において、韓国子会社(Cosmo Investment Management Co., Ltd.)の運用資産残高は当社持分が100%でないため含まれていない。(参考:2006年3月末の運用資産残高は1,711億円、対3月末比1,046億円増)

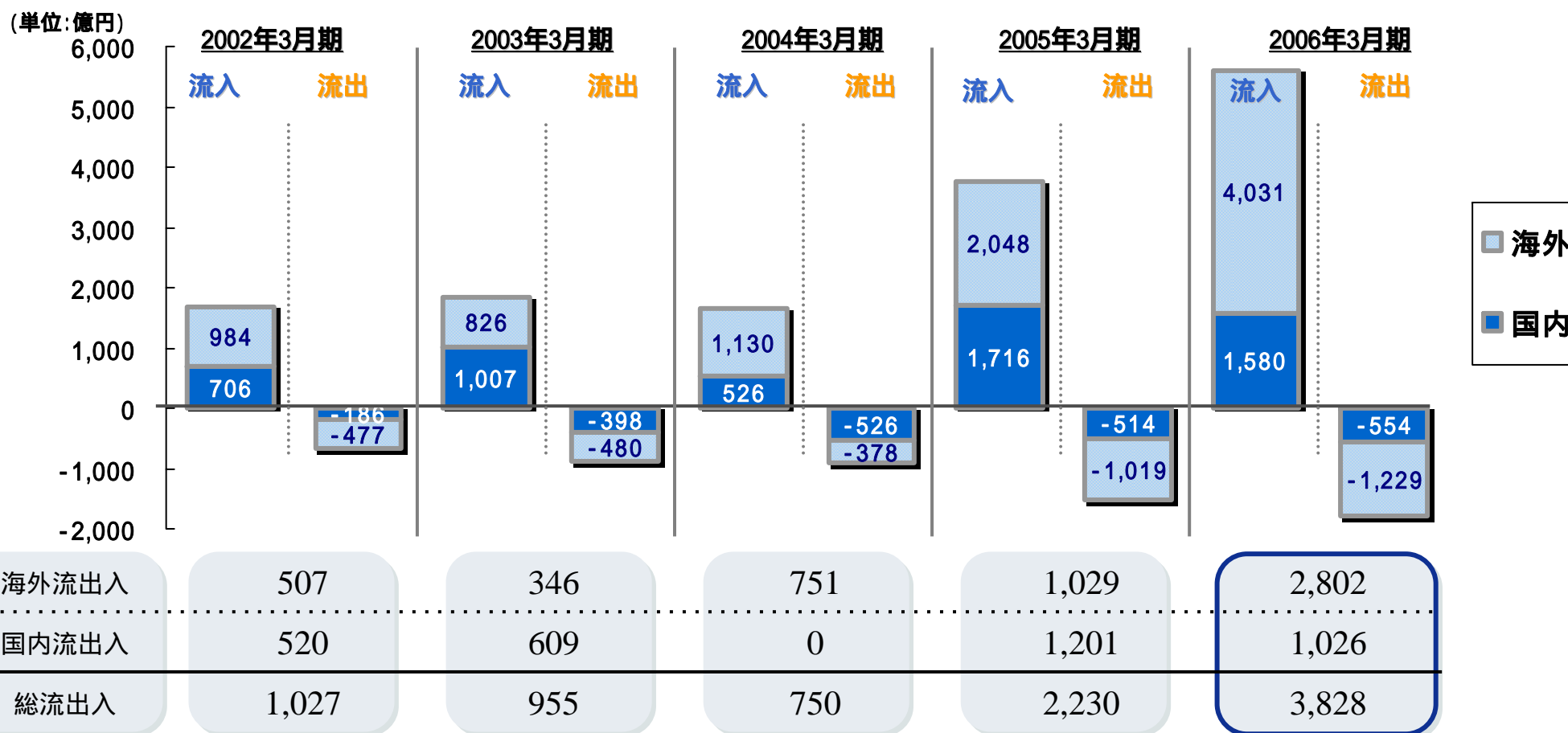
投資戦略別 運用資産残高(AUM)の推移



(注1) 上記グラフ中の数字のうち、運用資産残高に関しては、単位未満を切捨てて表示している。

(注2) ファンド・オブ・ファンズ投資戦略の2006年3月末運用資産残高は、速報値を使用している。

国内外別 流出入の推移



(注1) 上記の「国内・国外」の区分は、社内データ及び当社資料による、「最終顧客の属性」に基づく区別であり、その属性の正確性を保証するものではない。

(注2) 上記表中の数字は、単位未満は切り捨てて表示している。

(注3) 上記の「純流出入」は、顧客からの入出金のみを考慮した数字で、運用や為替による「その他増減」は考慮されていない。

営業収益 内訳

	2005年3月期		2006年3月期	
	通期		通期	前年同期比
残高報酬 (百万円)	7,962		12,582	+58.0%
料率(手数料控除後) (%)	0.88		0.81	-0.07
支払手数料控除後 (百万円)	6,626		9,655	45.7%
成功報酬 (百万円)	6,011		13,764	+129.0%
対AUM付帯比率 (%)	55.0		46.7	-8.3
その他営業収益 (百万円)	303		516	+70.4%
営業収益 合計 (百万円)	14,277		26,863	+88.2%

(注1) 上記表中の数字は「前年同期比」「残高報酬・料率(手数料控除後)」を除き、単位未満を切り捨てて表示している。「前年同期比」については、小数点以下第2位を四捨五入して表示している。なお「残高報酬・料率(手数料控除後)(%)」と「成功報酬・対AUM付帯比率(%)」の「前年同期比」は変化率ではなく、単純な増減幅を表示している。

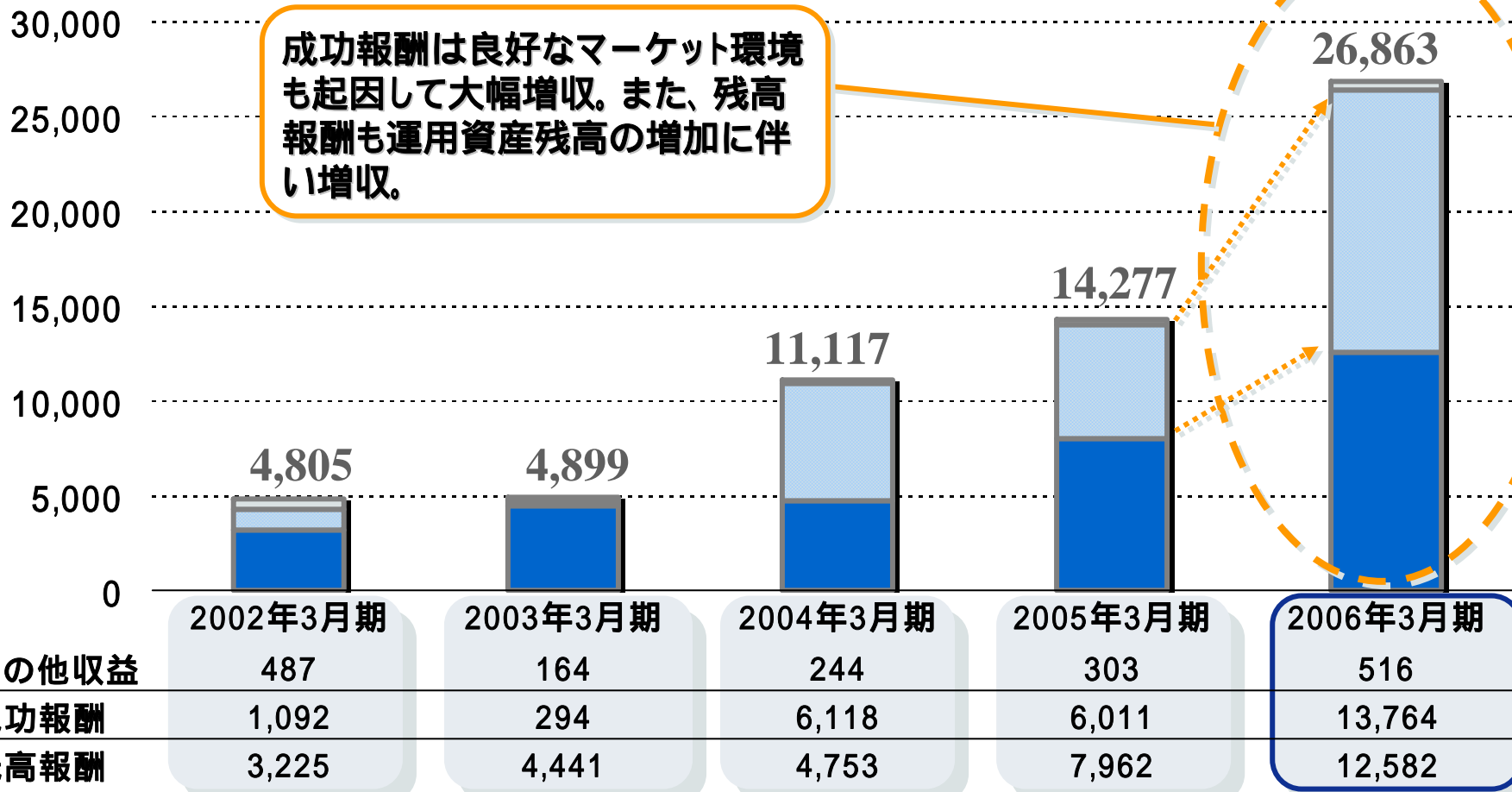
(注2) 上記「残高報酬・支払手数料控除後」は少数株主持株分利益の調整を行っている。また、2006年3月期の値に関しては、韓国子会社であるCosmo Investment Management Co., Ltd. 分の経費を控除し表示している。

(注3) 上記表中の「残高報酬・料率(手数料控除後)」において、Cosmo Investment Management Co., Ltd. は当社持分が100%でないため含まれていない。



営業収益の推移

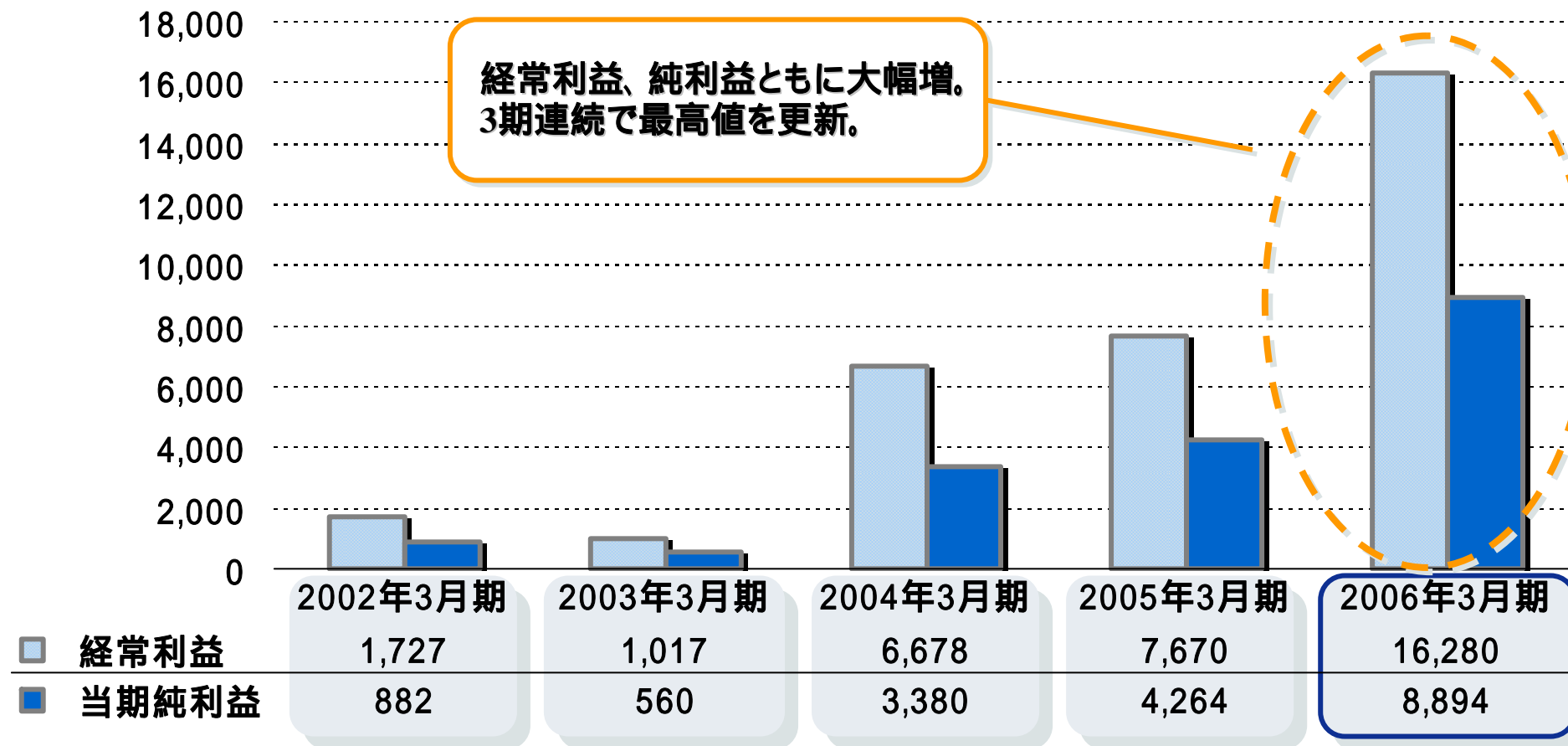
(単位:百万円)



(注) 上記表およびグラフ中の数字は単位未満を切り捨て表示している。

経常利益及び純利益の推移

(単位:百万円)



(注) 上記表およびグラフ中の数字は単位未満を切り捨て表示している。

基礎収益力

残高報酬(手数料控除後)のみで確保できる経常的な利益は、どのくらいか？

		2005年3月期	2006年3月期
		通期	通期
AUM平残	(億円)	7,556	11,913
残高報酬料率 (手数料控除後)	(%)	0.88	0.81
残高報酬 (手数料控除後)	(百万円)	6,649	9,650
経常的経費	(百万円)	3,508	4,400
基礎収益	(百万円)	3,141	5,250
役職員数(常勤)	(人)	127	201

(注1)上記表中数字は単位未満を切り捨て表示している。「残高報酬」は概算値として、残高報酬料率からの年換算値を表示している。

(注2)「経常的経費」とは 支払手数料全額、実績賞与、その他特殊要因により生じた費用等の合計を営業費用・一般管理費の合計から控除した費用の合計を指す。

(注3)「役職員数」は非常勤役職員を含まない。

(注4)上記表中の「残高報酬・料率(手数料控除後)」において、Cosmo Investment Management Co., Ltd.は当社持分が100%でないため含まれていない。



成功報酬 内訳

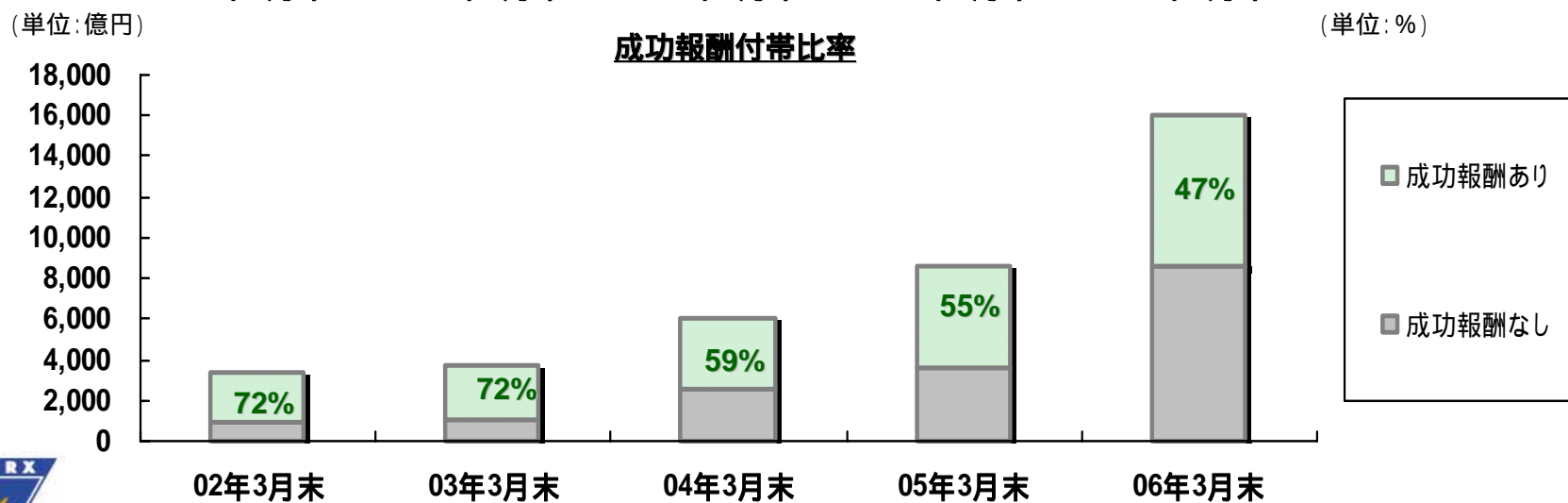
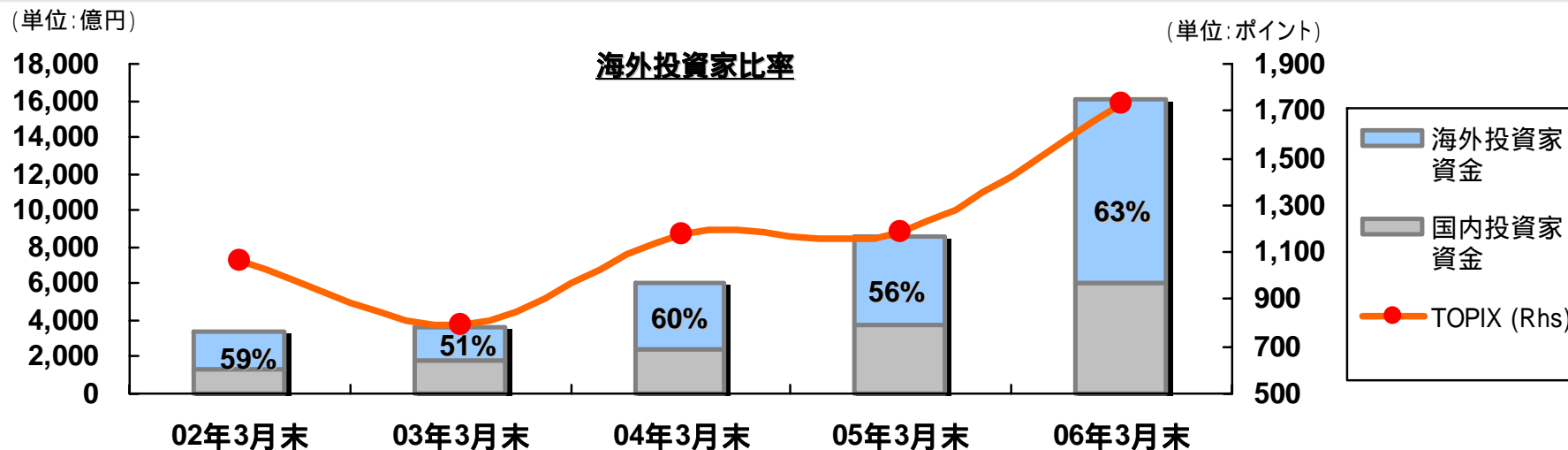
		2005年3月期		2006年3月期	
		通期		通期	前年同期比
AUM平残	(億円)	7,556		11,913	+57.7%
日本株式ロング・ショート	(百万円)	4,484		9,355	+108.6%
日本株式集中	(百万円)	931		1,347	+44.7%
ファンド・オブ・ファンズ	(百万円)	44		301	+584.1%
日本株式一般	(百万円)	220		152	-30.9%
日本株式中小型	(百万円)	32		143	+346.9%
バリュー・クリエーション	(百万円)	297		1,361	+358.2%
その他	(百万円)	-		1,102	-
成功報酬 合計	(百万円)	6,011		13,764	+129.0%



(注1) 上記表中の数字は、「前年同期比」を除き、単位未満を切り捨てて表示している。「前年同期比」は、小数点以下第2位を四捨五入して表示をしている。

(注2) 上記表中「その他」には、Cosmo Investment Management Co., Ltd.にて計上された成功報酬が含まれている。

海外投資家比率と成功報酬付帯比率の推移



(注) 上記の数字は、社内概算値を参考値として表示している。2006年3月末運用資産残高は、一部速報値を使用している。

経費 内訳

(単位は全て百万円)	分類	2005年3月期		2006年3月期	
		通期	前年同期比	通期	前年同期比
支払手数料	営業費用	1,599		2,903	+81.6%
委託計算費	営業費用	172		195	+13.3%
その他	営業費用	295		387	+31.2%
人件費	一般管理費	2,453		4,151	+69.2%
旅費交通費	一般管理費	288		349	+21.4%
不動産賃借料	一般管理費	371		500	+34.9%
事務委託費	一般管理費	374		606	+61.9%
減価償却費	一般管理費	166		249	+50.2%
その他	一般管理費	766		1,117	+45.7%
営業費用・一般管理費 合計		6,487		10,462	+61.3%



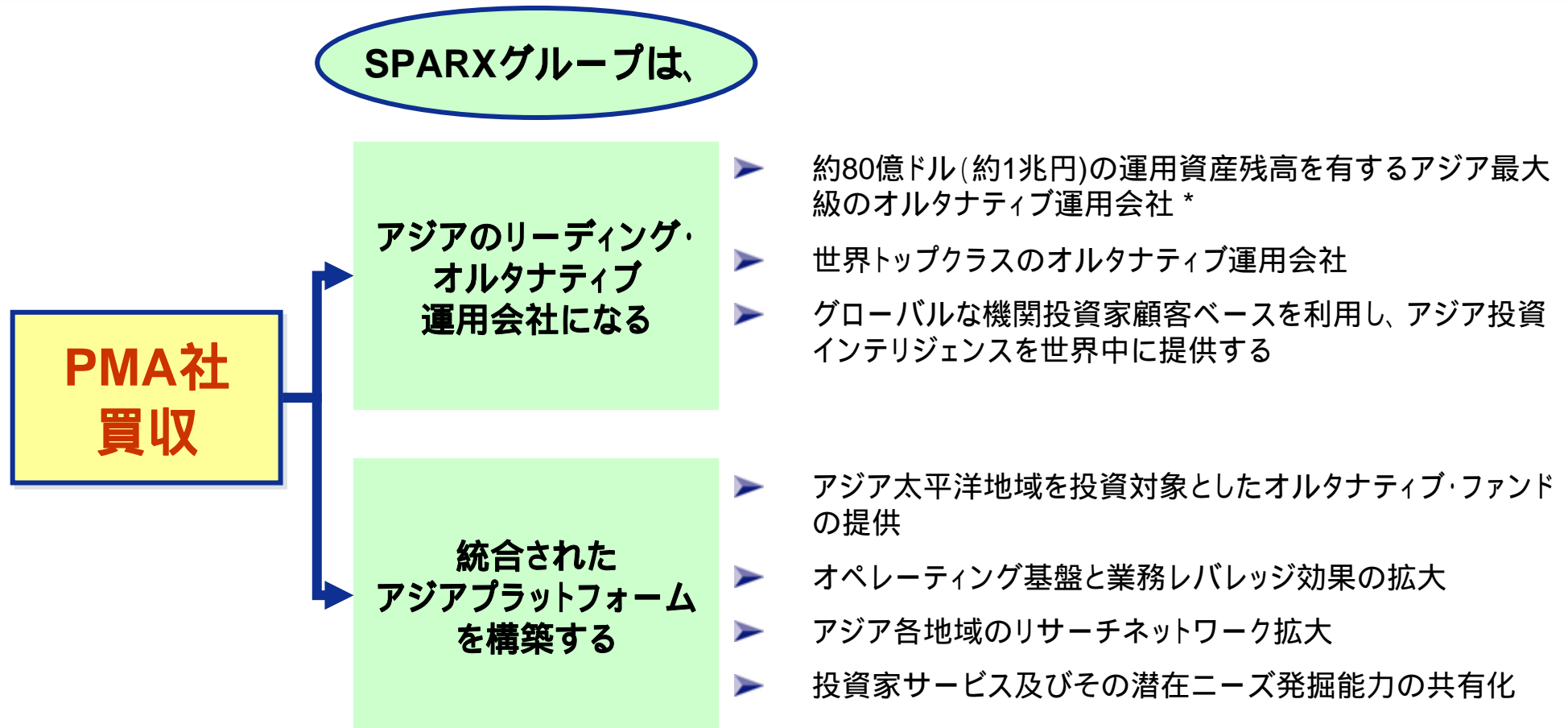
(注1) 上記表中の数字は、「前年同期比」を除き、単位未満を切り捨てて表示している。「前年同期比」は、小数点以下第2位を四捨五入して表示をしている。

(注2) 上記表中の「人件費」には、派遣社員等に関する費用も含んでいる。

アジア戦略について



SPARXのアジア戦略は次のフェーズへと前進した

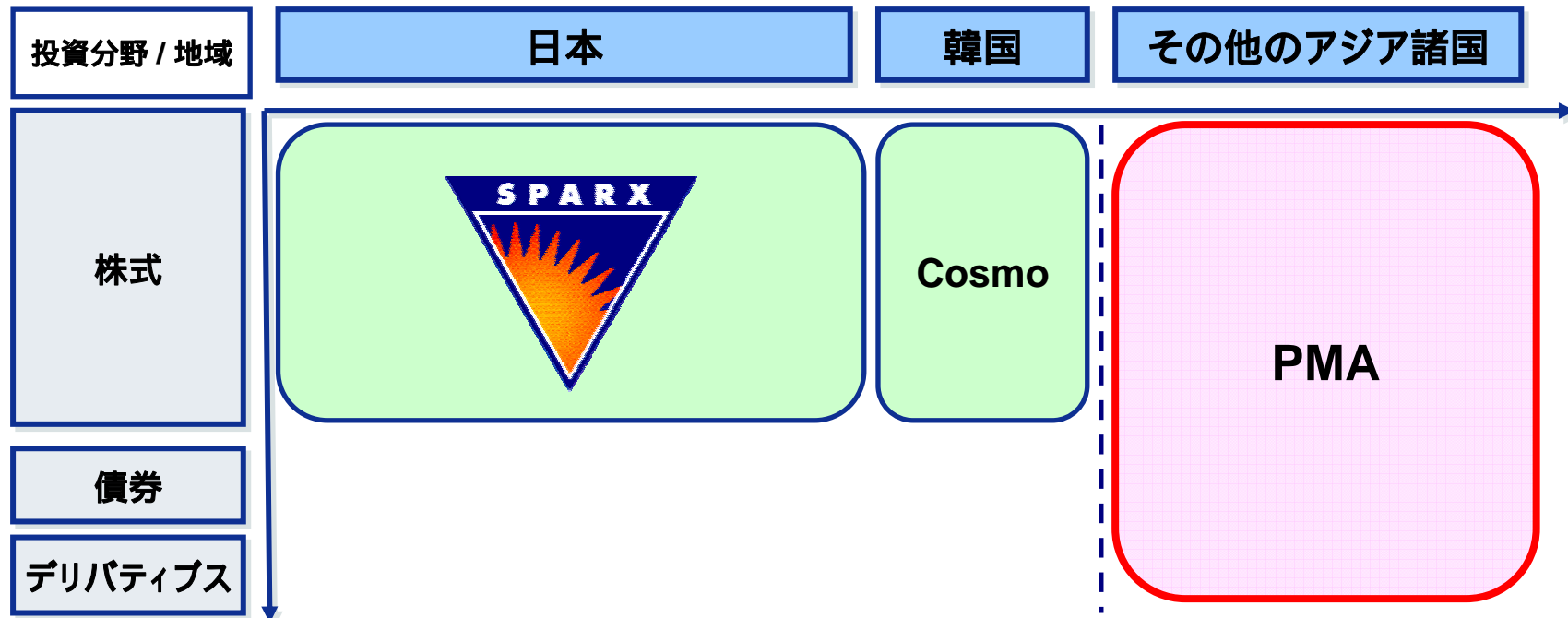


(注記)上記運用資産は、トラディショナルなロング・オンリーの投資戦略(SPARXおよびCosmo分)を除き、アクティブ・株式投資戦略と中小型株の投資戦略における関連ポートフォリオを含む

PMA社がSPARXに加わることにより、SPARXはアジア投資の広い分野をカバーできる

- ▶ PMA社がSPARXに加わることにより、SPARXの可能性が大きく飛躍する。これで、SPARXはアジアに投資プラットフォームを構築し、アジア市場の成長によりアジア成長市場に支配的なポジションを構築できるようになった

SPARXグループのビジネス・ドメイン



アジアの投資インテリジェンスの中心になる

アジアで成長を続けるSPARXの軌跡

- ▶ 日本におけるオルタナティブ投資で始まったSPARXの足跡は、アジア地域の主たる市場を網羅するまでに成長した

日本株のスペシャリストとして ...



- スパークス・アセット・マネジメント投信が日本株のインテリジェンスを、集中的かつ、ボトムアップのリサーチとユニークな投資戦略を通じて開拓する

... アジア各地域の機会を開拓する ...



- 韓国株式におけるリーディング・カンパニーのコスモ・インベスト・マネジメント社が、スパークスに参画する

新しいスパークス

... 今、アジア投資インテリジェンスをリードする

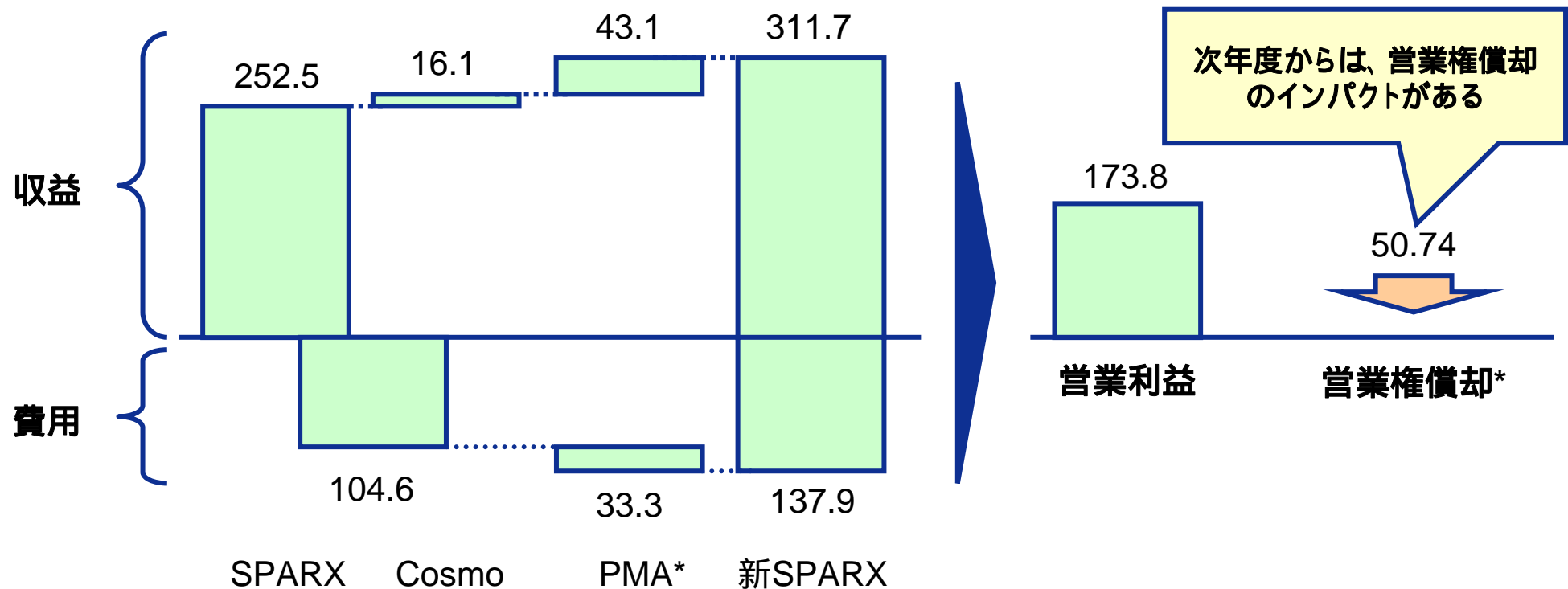


- 日本以外のアジア地域において最大規模のPMAキャピタル・マネジメント社がスパークス・ファミリーになる

新SPARXグループの姿：営業収益 / 利益

- ▶ SPARXはCosmoおよびPMAを連結すると、営業収益で310億円程度、営業利益で170億円程度になる。次年度以降は、営業権償却が年間50億円程度必要となってくる（償却期間5年とした場合）

2005年度実績で新しいSPARXをしてみる (単位:億円)



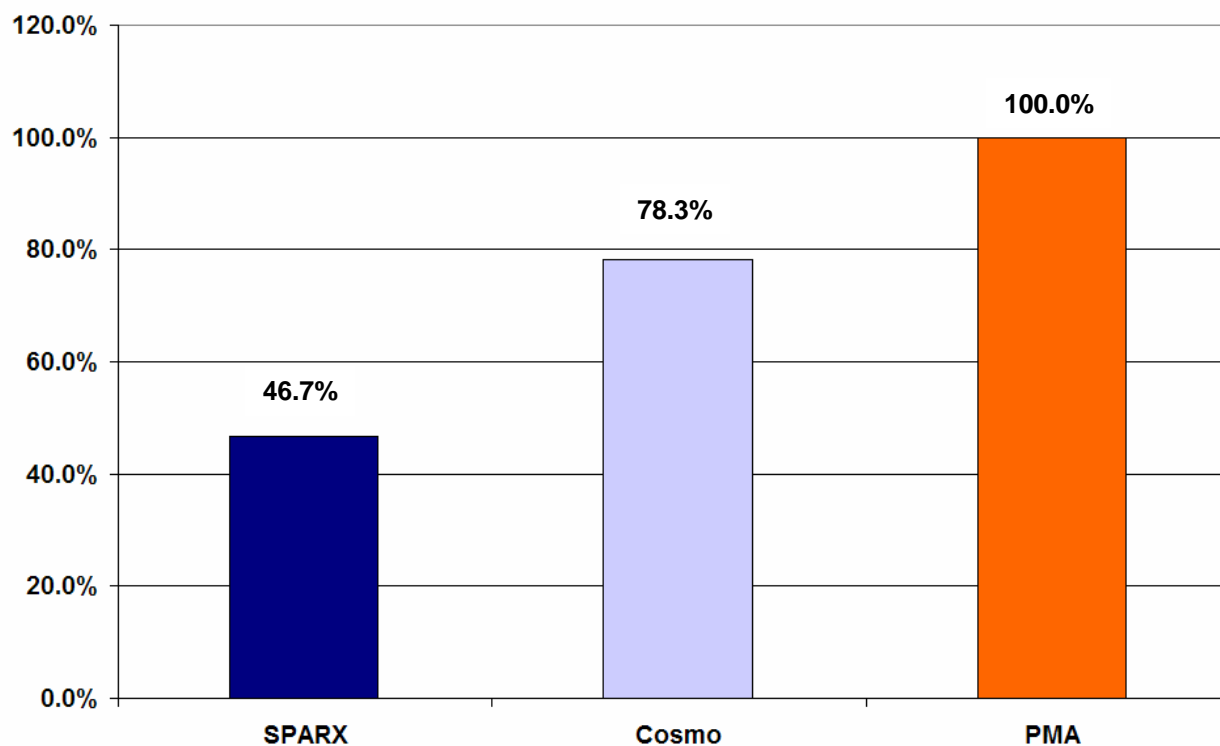
(注記) PMAの財務データは、2005年12月決算期(2005年4月～12月)の数字を使用
 営業権償却の金額は、5年償却(50.74億円)、10年償却(25.37億円)、15年償却(16.91億円)、20年償却(12.69億円)となる
 為替レート:\$1=¥117.295を使用

(出所) 内部資料

新SPARXグループの収益性について

- ▶ PMAは、100%の成功報酬付帯比率を有し、高い収益性を有している

SPARXグループ各社の平均成功報酬付帯比率



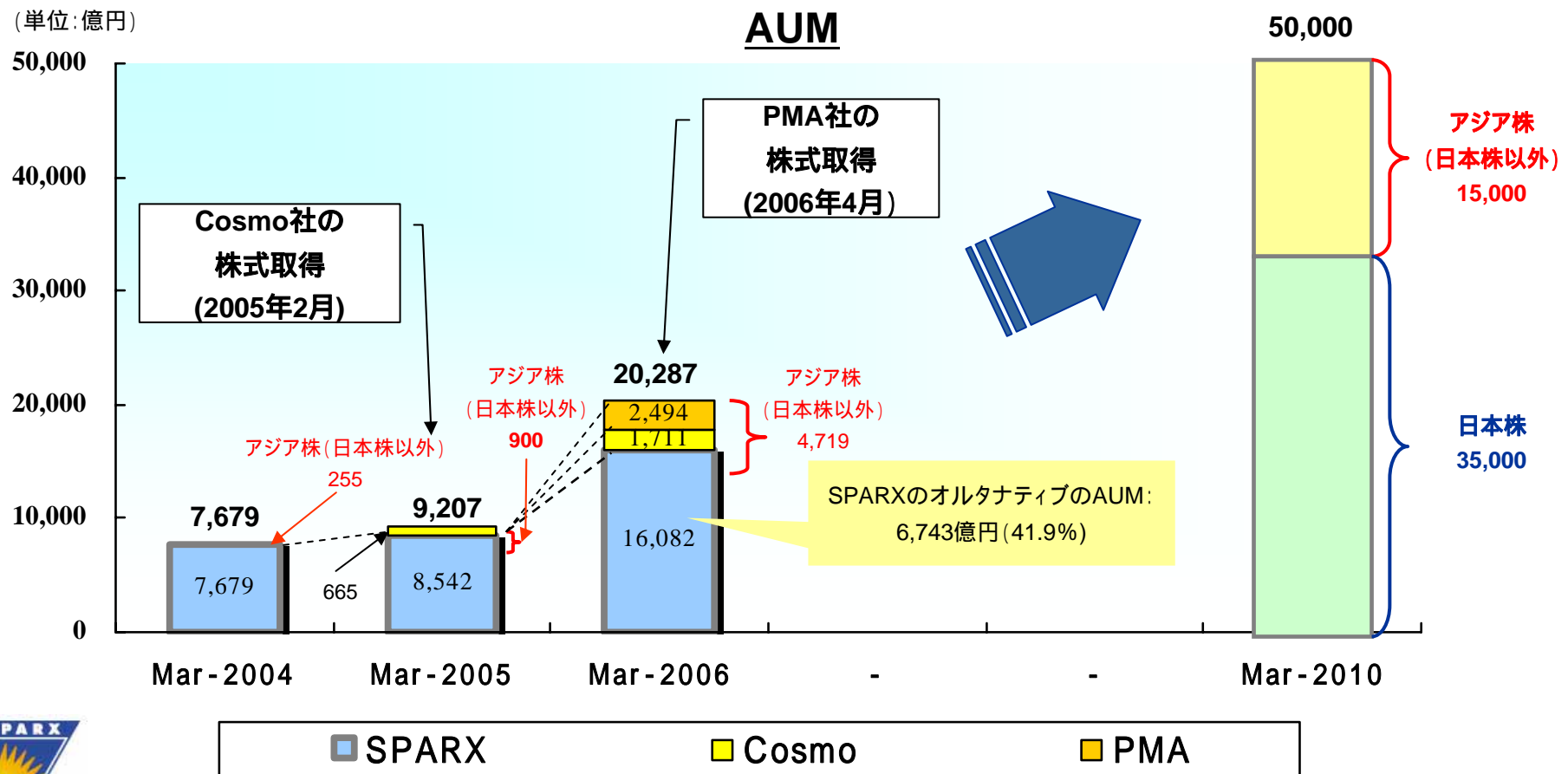
(注記) Cosmoの成功報酬付帯比率の詳細(絶対リターン型:30.9%、ベンチマーク型:39.8%、ハードルレート型:7.6%)

(出所)内部資料 (2006年3月末現在)



1+1+1 = 3以上の価値を目指して

- ▶ SPARXはこれまでも順調に成長してきたが、今回アジアのプラットフォームを構築することになり、更にフル・ポテンシャル・グロースを実現する



(出所) 内部資料

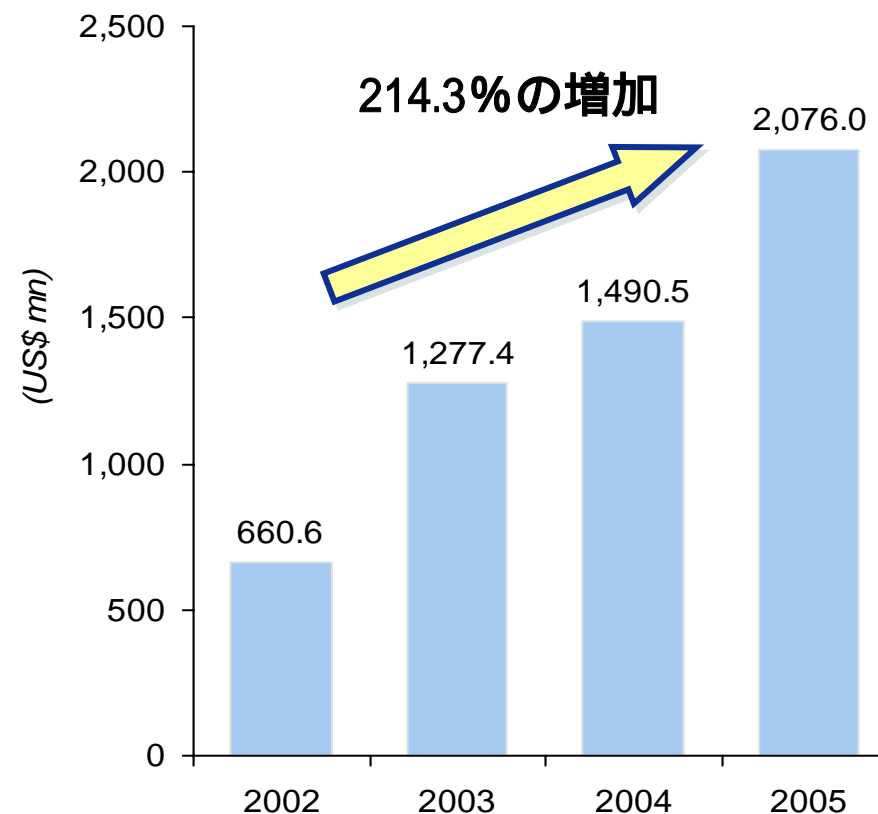
PMA社について

- ▶ PMA社は、2002年の設立以来、急速にAUMの残高を伸ばし、2005年度のAUMは設立時の約3倍に到達した

会社の概要

- PMA Capital Management Limited
- 2002年4月設立
- 日本を除くアジアを対象としたマルチ・ストラテジー・マネージャー
- 株式ロング・ショート、クレジット、マクロの3つの戦略で6つのファンドを運用
- 2005年末時点での運用資産は2,076百万ドル(約2,400億円)
- 強固なリスク・マネジメントに代表されるインフラに特色
- 45の欧米の大手機関投資家を顧客として有し、そこには、年金基金、保険会社、国際金融機関、中央銀行及び政府関係機関を含む
- 香港に本部機能を持ち、他にはロンドン・ドバイにオフィスを有する
- 全体のプロフェッショナルの数は46人

運用資産の推移



參考資料



運用資産残高(AUM)属性と海外投資家比率

投資信託委託業(単位:億円)	2003年	2004年	2005年	2006年	
	3月末	3月末	3月末	3月末	構成比
国内公募投信	351	282	839	1,236	7.7%
国内私募投信	770	1,049	1,398	1,733	10.8%
投資顧問業(単位:億円)					
個別口座(国内顧客)	255	573	890	1,609	10.0%
個別口座(海外顧客)	1,059	2,483	3,132	7,010	43.6%
スパークス設定海外籍ファンド	1,241	1,633	2,195	4,330	26.9%
投資助言契約	4	6	86	161	1.0%
合計	3,683	6,028	8,542	16,082	100.0%
海外投資家比率(単位:%)	51%	60%	56%	63%	



(注1) 上記表中の数字は、単位未満を切り捨てて表示している。なお、2006年3月末の構成比に関しては、小数点以下第2位を四捨五入し表示している。

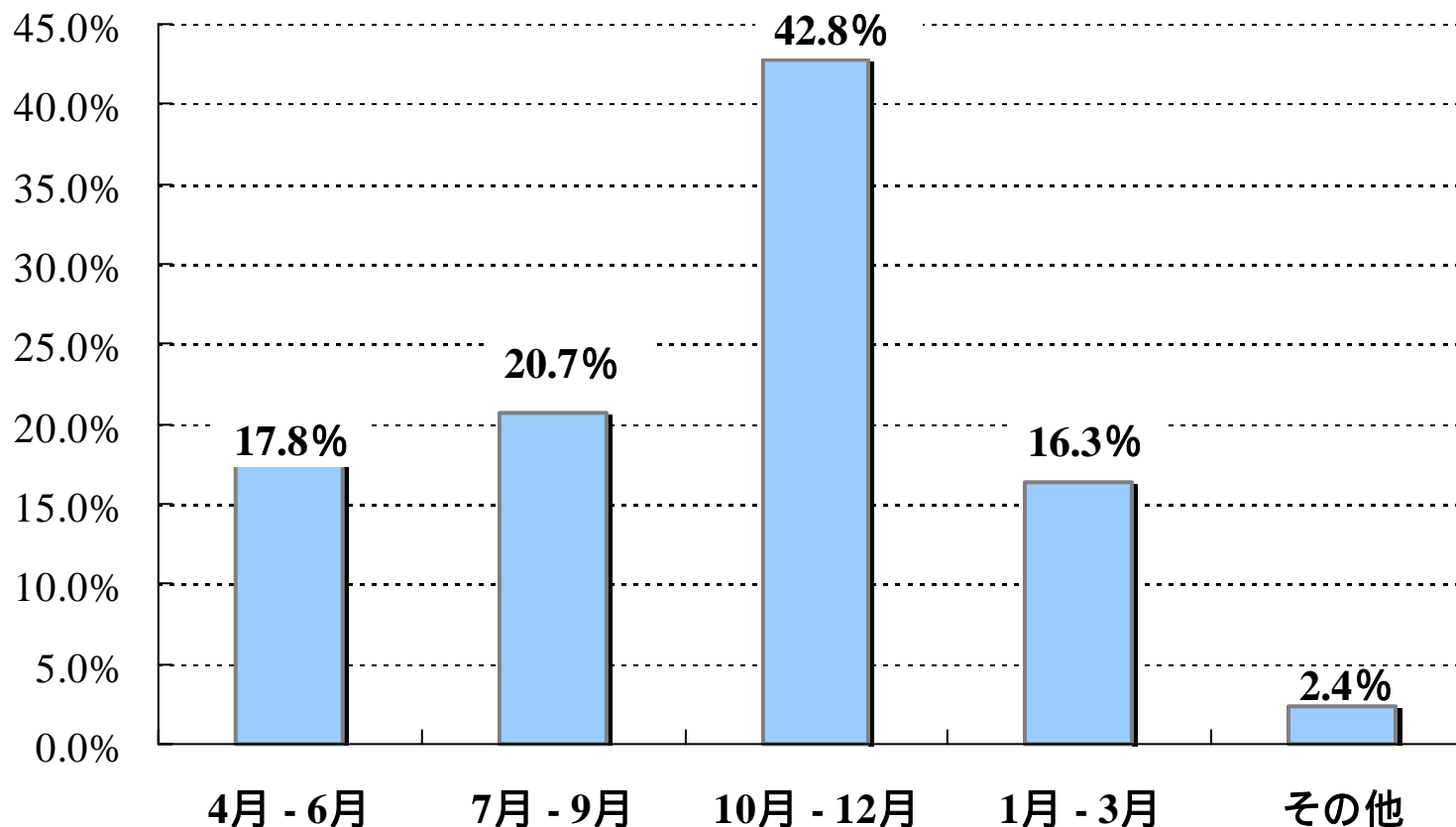
(注2) 「スパークス設定海外籍ファンド」とは、当社の海外子会社により運営されているファンドを指す。

(注3) 上記「海外投資家比率」は小数点以下第1位を四捨五入し、単位を%で表示している。また、上記の数値は社内の概算値を表示しており、正確性を保証するものではない。

(注4) 上記表中において、韓国子会社(Cosmo Investment Management Co., Ltd.)の運用資産残高は、当社持分が100%でないため含まれていない。

成功報酬の計算基準日の分布状況

運用資産残高(2006年3月末)に占める割合



(注1) 上記表中の「運用資産残高(2006年3月末)に占める割合」では、当社が運用する全てのファンド(「ファンド」とは、投資信託あるいは投資一任口座を指す。以下同様)を、成功報酬の基準日および支払いが確定する月ごとに分類し、その上で、当社の2006年3月末の運用資産残高に占める割合をグラフ化した。その際、複数の支払時期があるファンドについては、該当ファンドの残高全てを各月に計上、各月に重複して計上している分は、運用資産残高合計にも加算、成功報酬がついていないファンドは、運用資産残高の合計から除外、という調整を行い、上記割合を算出している。尚、上記の%表示は、小数点以下第2位を四捨五入し、表示している。

(注2) 上記の数字は、社内データ及び当社資料による概算値であり、正確性を保証するものではない。



グループ人員配置(常勤) 内訳

(注)括弧内の人数は、対2005年3月末比の増減人員数を示している。

	社長・ 監査役	運用調査	営業	コーポレート	ファンド 管理	IT	リーガル&コ ンプライアンス	リスク・パフォー マンス管理	合計
スパークス・アセット ・マネジメント投信	4 (-1)	45 (+12)	17 (+1)	16 (+4)	9 (+1)	9 (+1)	5 (+1)	4 (+3)	109(+22)
スパークス証券	0	0	13 (+4)	4 (+1)	0	0	1 (+1)	0	18 (+6)
スパークス・キャピタル ・パートナーズ	0	2 (+2)	0	2 (+2)	0	0	0	0	4 (+4)
米国子会社	0	1	7	6 (+2)	3	3 (+1)	3	0	23 (+3)
英国子会社	0	0	4	2 (+1)	2	0	2 (+1)	0	10 (+2)
香港子会社	0	3 (+3)	1 (+1)	2 (+2)	2 (+2)	0	2 (+2)	0	10 (+10)
韓国子会社 (Cosmo Investment Management Co., Ltd.)	0	14 (+6)	3 (+1)	3 (-1)	5 (+2)	1 (+1)	1 (+1)	0	27 (+10)
合計	4 (-1)	65 (+23)	45 (+7)	35 (+11)	21 (+5)	13 (+3)	14 (+6)	4 (+3)	201 (+57)

うち、ファンドマネージャー7名、アナリスト21名、トレーダー 6名、その他11名

主要投資戦略 計測開始日来自リターン

(年率換算)

(コンポジット計測開始日～2006年3月末)

	日本株式 一般(合同口)	日本株式 中小型	ロング・ショート (ドル建、 Lev.2)	ロング・ショート (円建、Lev.1)	集中投資	VCI (ドル建)
コンポジット	19.4%	12.7%	21.0%	8.2%	13.9%	45.1%
参考インデックス値	3.1%	9.3%	6.3%	3.3%	4.0%	31.1%
超過リターン	16.3%	4.4%	14.7%	4.9%	9.9%	14.0%

参考インデックス	TOPIX配当込	ラッセル野村日本株 スタイルインデックス・ミ ッド・アンド・スモール	TOPIX配当込 (ドルヘッジ)	TOPIX配当込	TOPIX配当込	TOPIX配当込 (ドルヘッジ)
計測開始日	97年5月	2000年1月	97年8月	2000年6月	99年7月	2003年2月
コンポジット・リターン のボラティリティ(年率)	24.4%	17.5%	12.0%	6.4%	23.2%	18.7%

(注1) 上記表中の数字は、当社で運用する主要な投資戦略のコンポジット・リターンを社内資料に基づいて作成した。表中の「参考インデックス」とは、相対比較のために便宜的に採用した指標であり、顧客から要請されているベンチマークとは限らない。

(注2) リターン算出基準は次の通り。「日本株式一般」「日本株式中小型」「ロング・ショート(ドル建、Lev.2)」「集中投資」については、修正デット法・運用関連手数料控除前、「ロング・ショート(円建、Lev.1)」は基準価格法・運用手数料控除後、「VCI(ドル建)」は内部収益率・運用手数料控除前。また、上記数字は小数点以下第2位は四捨五入して表示している。

(注3) 「TOPIX配当込(ドルヘッジ)」は1ヶ月為替フォワード・レートで完全にヘッジされた場合のドル建のリターンを計算している。



コンポジット算出に関する追記

- 各コンポジットはスパークス・アセット・マネジメント投信株式会社とその100%子会社であるSPARX Overseas, Ltd. 及びSPARX Investment & Research, USA, Inc.が運用するポートフォリオを対象としている。
- 今回提示した各コンポジットの投資戦略の内容は以下の通りである。

コンポジットの名称	投資戦略の内容
日本株式一般(合同口)	合同運用を行う、日本の全上場・公開銘柄を投資対象とするアクティブ投資戦略
日本株式中小型	日本の中・小型株を主要投資対象とする投資戦略
ロング・ショート (ドル建、Lev2)	日本株に対するロング・ポジションとショートポジションの合計を純資産の2倍の範囲内として安定した絶対リターンを目標とするロング・ショート投資戦略
ロング・ショート (円建、Lev1)	日本株に対するロング・ポジションとショートポジションの合計を純資産の1倍の範囲内として安定した絶対リターンを目的とするロング・ショート投資戦略
集中投資	少数銘柄の日本株式に集中的に投資する投資戦略
VCI(ドル建)	コーポレート・ガバナンスの見地から日本株式に能動的に投資する投資戦略

3. リターンに関する追加情報(過去5年の年度別リターン)

	2002年3月期	2003年3月期	2004年3月期	2005年3月期	2006年3月期
日本株式一般(合同口)	-0.22%	-25.58%	78.05%	5.54%	60.69%
日本株式中小型	4.37%	-19.98%	70.25%	13.26%	44.34%
L/S(ドル建、Lev2)	9.68%	-6.41%	37.92%	2.36%	27.95%
L/S(円建、Lev1)	7.09%	-7.31%	27.76%	2.96%	18.90%
集中投資	-9.65%	-10.51%	53.23%	3.13%	48.94%

- GIPSに準拠したコンポジットは、要請があれば提供することが可能である。



本資料は、参考資料としてスパークス・アセット・マネジメント投信株式会社が作成したものであり、証券取引法上の開示資料ではありません。また、本資料は、投資情報の提供を目的としたものであり、特定の商品、あるいは、有価証券の勧誘を目的にしたものではありません。投資判断は、各人の個別の情報と判断と責任によってなされるものであり、投資結果についてスパークス・アセット・マネジメント投信株式会社が責任を負う事はありません。情報については、正確を期していますが、正確性に責任を負うものではありません。本資料に記載された意見や予測等は、資料作成時点でのものであり、今後、予告なしに変更されることがあります。また、過去の実績に関する数値は、将来の結果をお約束するものではありません。この資料は、目的によらず、スパークス・アセット・マネジメント投信株式会社の許可なしに複製・複写をする事を禁じます。